

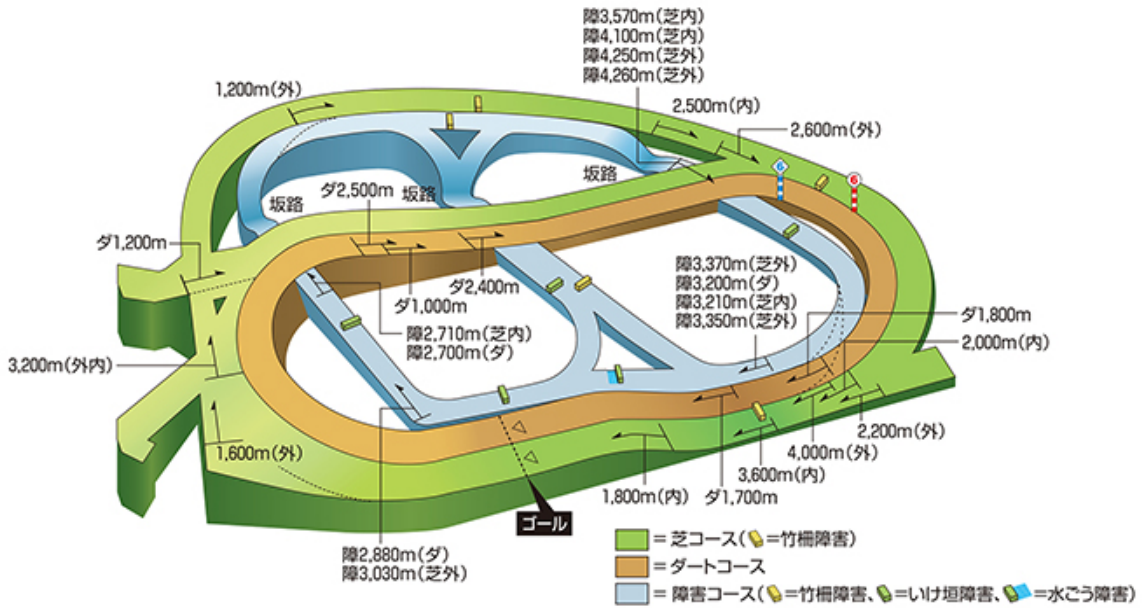


「中山競馬場徹底攻略ガイド」

presented by KAZ@競馬はビジネスである



～中山競馬場の特徴～

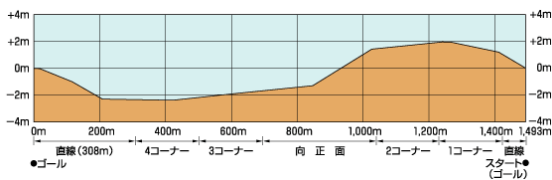
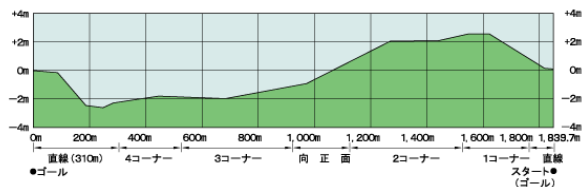
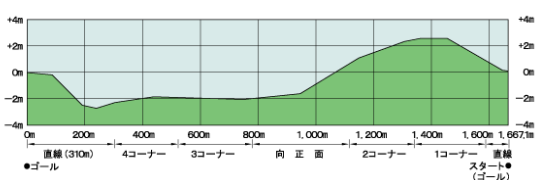


東京競馬場と並んで関東の中央競馬の2枚看板となっている中山競馬場。この競馬場は少しでも競馬をご存知の方なら分かる通りで「トリッキー」で「直線に急坂」がある点が最大のポイント。

同じ関東の中央競馬の競馬場と言っても東京競馬場とは回りの向きからして違いますし、直線の長さも半分ほど。それだけ東京と中山は求められる適性が全く異なりますし、開催替わりでそれぞれの競馬場で好走してきた馬、凡走してきた馬をどう評価するかは重要なポイントです。

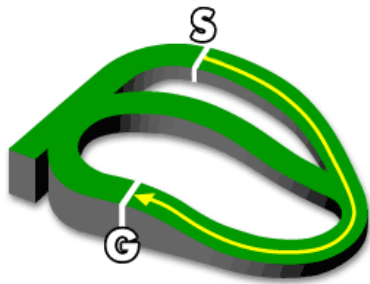
芝の内回りコース及びダートコースは大き的にはローカルの小回りコースとほぼ同じくらい。ただ、ローカルの小回りコースとは異なり、直線に中央競馬で最大の急坂があるためローカルの平坦コースで押し切れた逃げ馬も中山では苦戦することが多い。それだけスタミナが問われる舞台というのは間違いないだろう。

直線に急坂があるというのも重要だが、それと同じくらい重要なのが向こう正面の途中から勝負所までずっと下り坂のコースだということ。必然的にその下り坂部分でペースが上がるので、芝の中距離戦やダート1800mではロンスパ戦になりやすく、芝1200mやダート1200mではテンからかなり速いペースになりやすいです。



中山芝1200m

スタート直後から下り坂で電撃スピードが問われるも直線には急坂がある



スタート直後から下り坂になっており、強制的に前半ペースが速くなるのがこの舞台の特徴。スタートから下り坂でその勢いのままにコーナーに突っ込んでいくというのは小倉芝1200mと同じ。全ての中央競馬のスプリント戦の中でも小倉芝1200mと中山芝1200mは屈指にテンスピードが速くなりやすい。

脚質上り	着別度数				勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	17-	10-	13-	46/ 86	19.8%	31.4%	46.5%	156	187
平地・先行	35-	41-	26-	213/ 315	11.1%	24.1%	32.4%	114	94
平地・中団	23-	21-	34-	394/ 472	4.9%	9.3%	16.5%	56	67
平地・後方	11-	14-	13-	372/ 410	2.7%	6.1%	9.3%	43	30
平地・マク	0-	0-	0-	0/ 0					

※中山芝1200mの脚質別成績(2020年1月～)

それだけテンスピードが問われる舞台だが、直線に急坂もあるためにそのまま逃げ切る馬は過去2年で見ても20%ほど。直線が平坦な新潟芝1200mが勝率35%ほどですから、やはり坂がある分では最後は少し厳しくなる逃げ馬が多いです。

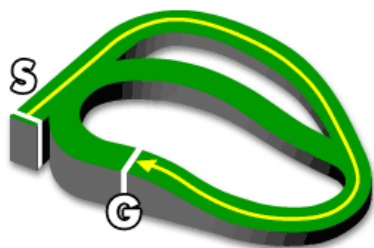
こうして傾向を見ても基本的には先行馬が有利な舞台ですが、あまりにも先行馬が飛ばしすぎてオーバーペースになると直線の急坂で前が止まって極端な差し追い込み決着になることも。速いペースでも前が残るか、それとも前が止まって差しがズバツと決まるかの見極めが重要なコースと言えます。

<まとめ>

- テンスピードが非常に速くなりやすい舞台
- 先行馬有利の傾向も、オーバーペースになると差し追い込み決着になることも

中山芝1600m

中山競馬場を代表するトリッキーで持続力が問われるマイル戦



1～2コーナー部分の奇妙な引き込み線からスタートして外回りコースをぐるっと回る中山競馬場の中でもかなりトリッキーで異質なコース。スタートしてすぐに急なコーナーを回ることになるため、以前から内枠が圧倒的に有利と言われていたが、2010年代の中山競馬場のコース改修後は言われるほど内枠有利ではなくなってきた感じ。

枠番	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1枠	23- 13- 26-198/260	8.8%	13.8%	23.8%	122	95
2枠	22- 18- 9-220/269	8.2%	14.9%	18.2%	124	80
3枠	17- 21- 19-219/276	6.2%	13.8%	20.7%	41	82
4枠	28- 19- 10-228/285	9.8%	16.5%	20.0%	98	59
5枠	19- 24- 25-228/296	6.4%	14.5%	23.0%	46	92
6枠	18- 20- 29-237/304	5.9%	12.5%	22.0%	60	74
7枠	18- 25- 21-250/314	5.7%	13.7%	20.4%	75	82
8枠	17- 22- 25-252/316	5.4%	12.3%	20.3%	45	72

※中山芝1600mの枠順別成績(2020年1月～)

こうして見ても複勝率ベースでそこまで枠順の有利不利はなさそうな感じ。ただ、回収率で見るとやはり1枠と2枠の成績が良いので、セオリー通りに若干内枠の方が有利ということはいえそうです。

序盤から最初のコーナーまでのポジションが激しくなりやすく、なおかつコーナーを曲がってからは下り坂で直線に向くまでずっとスピードが落ちないようなコース設計。他場の芝1600m戦だと中盤のラップが緩んで直線での決め手勝負になることが多いが、中山芝1600mは中盤部分が緩まずにスピードの持続力が問われるのが特徴。

中山競馬場の全ての距離条件の中でも、他場の同距離戦と求められる適性が最も異なるコースと言って良さそう。他の競馬場の芝1600mで強い競馬を見せていたからといって、イコールで中山マイルでも強い馬とは考えない方が良さそうです。

脚質上り	着別度数				勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	29-	29-	16-	123/ 197	14.7%	29.4%	37.6%	282	206
平地・先行	73-	73-	67-	340/ 553	13.2%	26.4%	38.5%	109	124
平地・中団	40-	49-	66-	688/ 843	4.7%	10.6%	18.4%	54	72
平地・後方	15-	10-	14-	673/ 712	2.1%	3.5%	5.5%	15	18
平地・マクリ	5-	1-	1-	7/ 14	35.7%	42.9%	50.0%	177	79

※中山芝1600mの脚質別成績(2020年1月～)

だいたいマイル戦というのは逃げ、先行、中団の脚質別成績がほぼ同じくらいになりやすいのだが、中山マイル戦は逃げ先行脚質の馬の成績が他場のマイル戦よりも優秀。これは他場でマイルの条件がある競馬場が東京、京都、阪神、中京、新潟と全て直線が長くて決め手を活かしやすいコースなのに対して、中山競馬場はマイルの距離がある競馬場では唯一、直線が短いコースというものもあるか。そんなわけで、中盤が緩まない持続力ラップを先行してバテずに粘り込めるような馬が有利な舞台です。

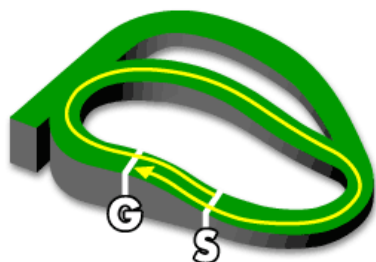
種牡馬別の成績を見ると、パワータイプのディープインパクト系の馬の成績が優秀。シルバーステート産駒やキズナ産駒、グレーターロンドン産駒の活躍が最近が目立っています。

<まとめ>

- 1、2枠の回収率は優秀だが、言われるほど内枠有利ではない
- 中盤ラップが緩まないスピード持続力勝負になりやすい
- 他場のマイル戦とは求められる適性が全く異なる舞台
- 先行してバテずに粘り込めるような馬が有利
- シルバーステート産駒やキズナ産駒、グレーターロンドン産駒の活躍が目立つ

中山芝1800m

J R A でも屈指に前有利な立ち回り優勢のぬるま湯コース



スタート直後に急坂があって、なおかつ1コーナーまでの距離がないためにほぼ間違いなくスローペースになる舞台。向こう正面まではほぼノーストレスで先行馬が息を入れながら進めることが多く、向こう正面の下り坂からロングスパート勝負になっても先行馬の余力が残っているために圧倒的に前有利のレース傾向。J R A の競馬場の全コースの中でも屈指に前有利な立ち回り優勢の舞台だ。

脚質上り	着別度数				勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	19-	11-	6-	54/ 90	21.1%	33.3%	40.0%	326	129
平地・先行	41-	45-	42-	186/ 314	13.1%	27.4%	40.8%	109	104
平地・中団	26-	30-	31-	311/ 398	6.5%	14.1%	21.9%	64	68
平地・後方	1-	2-	8-	333/ 344	0.3%	0.9%	3.2%	0	5
平地・マクリ	2-	1-	2-	13/ 18	11.1%	16.7%	27.8%	127	56

※中山芝1800mの脚質別成績(2020年1月～)

こうして見ても逃げ先行馬の成績が圧倒的。中団までの馬でほぼ全てが決まりますし、このコースでなかなか差し追い込み決着を狙ったり、差し馬を中心視するというのは危ないと思います。とにかく前に行ける馬のなだれ込みを狙えるぬるま湯コースと言って良さそうです。

ただ、2～3歳馬や牝馬となると話は少し別。なんだかんだで直線の急坂を2回越えるのでスタミナは要求される舞台で、まだ体力がつききっていない若駒や牝馬同士のレースになるとスタミナが問われて立ち回り勝負にならないことも多い。3歳限定の若竹賞だったり牝馬限定の中山牝馬ステークスは立ち回りよりもスタミナを重視して予想したいです。

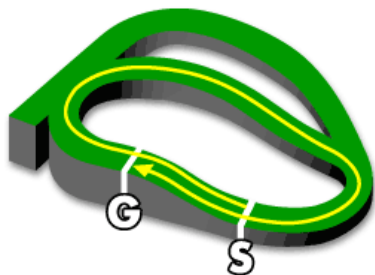
先行力を活かしてこそ横山武史騎手、上手く立ち回って決め手を活かしてこそルメール騎手の活躍が目立っています。

<まとめ>

- J R A のコースの中でも屈指に先行勢が有利の立ち回り優勢コース
- 2～3歳の特別戦や牝馬限定の中山牝馬Sは立ち回りよりもスタミナが問われる
- 横山武史、ルメール騎手は複勝率5割超えの成績

中山芝2000m

前半スローからのロンスパ戦でラスト1000mの質が問われる



中山芝1800mから2000m伸びることで1コーナーまでの距離は長くなるが、スタート直後に急坂があるのは変わらないので前半ペースは緩みやすい舞台。皐月賞のような超ハイレベル戦ではハイペースからのポテンシャル勝負になることも多いが、基本的には前半スローペースになるのが普通です。

前半がスローペースになっても向こう正面から下り坂になるのでスパート地点が早くなるのがこの舞台の特徴。2022年のこれまでのレースのラップ傾向を見てもそれはわかりやすいです。

日付	クラス	馬場	タイム	勝ち馬	1F	2F	3F	4F	5F	6F	7F	8F	9F	10F	上3F	中4F	下3F	上5F	下5F	ペース	レース
1月5日	3勝	良	2:01.9	アスクビクターモア	12.5	11.8	13.1	12.7	12.7	12.4	12.4	11.4	11.2	11.7	37.4	50.2	34.3	62.8	59.1	SS	瞬発
1月5日	1勝	良	2:00.2	アオイゴールド	12.2	11.1	12.3	11.7	12.1	12.1	12.1	11.9	11.8	11.3	35.5	48	36.7	59.3	60.9	M	消耗
1月5日	OP	良	2:00.1	レッドガラン	12.5	11.7	13.4	12.1	12.3	11.1	11.2	11.6	11.9	12.4	37.6	46.6	35.9	62	58.1	SS	平坦
1月5日	2勝	良	2:01.9	レッドライデン	12.7	11.7	13.4	12.2	12.2	11.7	11.7	11.8	11.8	12.7	37.8	47.8	36.3	62.2	59.7	SS	平坦
1月9日	新馬	良	2:05.5	マイネルニコラス	12.9	12.1	14.4	13	13.3	12.7	12.4	11.4	11.3	12	39.4	51.4	34.7	65.7	59.8	SS	瞬発
1月10日	未勝利	良	2:04.1	スリーエクスプレス	12.6	11.1	13	12.6	12.7	12.3	12.6	12.3	12.2	12.7	36.7	50.2	37.2	62	62.1	SS	平坦
1月15日	未勝利	良	2:04.4	オウケンボルト	13.2	11.7	13.5	12.7	12.7	12.4	12.1	11.8	11.7	12.6	38.4	49.9	36.1	63.8	60.6	SS	平坦
1月16日	3OP	良	2:01.3	オニヤンコボン	12.5	10.6	12.6	12.2	13	12.5	12.4	12	11.4	12.1	35.7	50.1	35.5	60.9	60.4	S	平坦
1月22日	未勝利	良	2:02.7	エンギダルマ	12.7	11.5	12.8	12.1	12.5	12.2	12	12.3	12	12.6	37	48.8	36.9	61.6	61.1	S	平坦
1月22日	3勝	良	2:01.3	レッドライデン	12.5	11.4	13.8	12.2	12.2	11.8	11.9	11.8	11.3	12.4	37.7	48.1	35.5	62.1	59.2	SS	平坦
1月23日	新馬	良	2:04.4	エバーハントニング	13	11.6	13.9	12.7	12.8	12.2	12.3	12.1	11.6	12.2	38.5	50	35.9	64	60.4	SS	平坦
2月26日	未勝利	良	2:01.1	アレグロモテラート	12	10.9	12	12.5	12.3	12.1	12.4	12.7	11.9	12.3	34.9	49.3	36.9	59.7	61.4	H	消耗
2月27日	未勝利	良	2:01.3	シャーマンズケイブ	12.4	10.6	11.5	12.3	12.5	12.7	12.5	12.3	12.1	12.4	34.5	50	36.8	59.3	62	H	消耗
3月6日	3OP	良	2:01.1	アスクビクターモア	12.7	11.6	11.9	12.5	12.4	12.4	11.8	11.5	11.4	12.3	36.2	49.1	35.2	61.1	59.4	S	瞬発
3月12日	3勝	良	2:00.4	エターナルビクトリ	12.3	10.6	11.9	12.6	12.6	12.4	12.6	12	11.4	12	34.8	50.2	35.4	60	60.4	M	平坦
3月13日	未勝利	良	2:00.5	タシット	12.2	11.4	12.2	12.6	12.5	12.2	11.7	12	11.6	12.1	35.8	49	35.7	60.9	59.6	M	平坦
3月20日	未勝利	重	2:03.9	レガール	12.5	11.7	12.4	12.9	13	12.4	12.3	12.4	11.7	12.6	36.6	50.6	36.7	62.5	61.4	S	平坦
3月20日	2勝	稍重	2:02.3	アステロイドベルト	12.5	12.2	12.7	12.9	12.5	11.5	11.9	12	11.8	12.3	37.4	48.8	36.1	62.8	59.5	S	平坦
3月21日	1勝	稍重	2:01.5	リバーブライト	12.3	11.4	12.3	12.7	12.4	12.1	12.1	11.9	11.9	12.4	36	49.3	36.2	61.1	60.4	S	平坦
3月27日	3勝	重	2:02.6	ラブハイロー	12.8	11.3	12.3	12.9	12.6	12.2	12.3	12	11.8	12.4	36.4	50	36.2	61.9	60.7	S	平坦
4月2日	未勝利	稍重	2:02.2	ヴィブラヴィオーネ	12.6	11.1	13.3	12.4	12.7	12.5	12.3	12	11.7	11.6	37	49.9	35.3	62.1	60.1	S	瞬発
4月3日	3勝	稍重	2:02.1	エヴァーガーデン	12.5	11.6	12.8	12.3	12.2	12	12.2	12.1	11.7	12.7	36.9	48.7	36.5	61.4	60.7	S	平坦
4月9日	新勝利	良	2:00.8	バラレルヴィジョン	12.4	10.6	11.6	12.1	12.4	12.2	12.5	12.4	12.4	12.2	34.6	49.2	37	59.1	61.7	H	消耗
4月10日	未勝利	良	2:01.5	ゴールデンアワー	12.5	11.4	12.4	12.8	12.9	12	11.6	11.8	12	12.1	36.3	49.3	35.9	62	59.5	S	平坦
4月10日	2勝	良	1:59.2	ゾーニッヒ	12.4	10.7	12	12.4	12.8	12.2	12	11.7	11.2	11.8	35.1	49.4	34.7	60.3	58.9	S	瞬発
4月16日	3勝	稍重	2:00.3	ロシヤムパーク	13	11.6	12.5	12.3	12.1	11.2	12	11.9	11.5	12.2	37.1	47.6	35.6	61.5	58.8	S	平坦
4月17日	2勝	良	2:01.0	パブルレディー	12.7	11.6	12.6	12.1	12.4	12.2	12	11.8	11.7	11.9	36.9	48.7	35.4	61.4	59.6	S	平坦
4月17日	3OP	良	1:59.7	ジオグリフ	12.6	11.1	11.6	12.2	12.8	12.3	12.3	12	11.4	11.5	35.2	49.6	34.9	60.2	59.5	S	瞬発

中山芝1800mに比べると前半負荷もかかって後半の1000m勝負で地力も問われるために総合力が問われやすい。立ち回り要素も重要だが、1800mよりは力通りに決まるイメージの舞台だ。

脚質上り	着別度数				勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	19-	11-	11-	90/131	14.5%	22.9%	31.3%	186	91
平地・先行	55-	58-	57-	271/441	12.5%	25.6%	38.5%	88	110
平地・中団	38-	48-	41-	489/616	6.2%	14.0%	20.6%	67	77
平地・後方	6-	3-	12-	490/511	1.2%	1.8%	4.1%	13	17
平地・マク	6-	4-	3-	11/24	25.0%	41.7%	54.2%	91	186

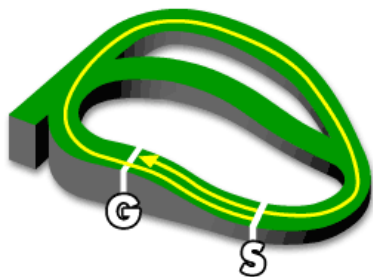
※中山芝2000mの脚質別&上がり3ハロン別成績(2020年1月~)

<まとめ>

- 前半スローペースから後半1000mのロングスパート勝負になりやすい
- 逃げ、先行、中団は互角で捲りも決まりやすく、総合力が問われる

中山芝2200m

中山の芝長距離で唯一外回りコースを使う特殊な非根幹距離戦



中山競馬場の芝中長距離戦は1800mも2000mも2500mも内回りコースを使用。一方で唯一、外回りコースを使うのがこの中山芝2200m。よってこのコースは距離が近くても2000mや2500mとは別物として考えた方がいい。

スタートしてから1コーナーの入りまでは中山芝2000mとほぼ同じなのでスローペースになりやすいが、外回りコースの向こう正面からずっと下り坂になる上に3～4コーナー部分が傾斜が緩いフォルスストレートのような形状になっているためにほとんど3コーナーはあってないものという感じのコース設定。必然的にスタート地点が早くなりやすく、ロングスパート勝負でのスタミナ比べになりやすい。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	10- 3- 7- 38/ 58	17.2%	22.4%	34.5%	78	80
平地・先行	24- 25- 18- 95/160	15.0%	30.6%	40.6%	100	126
平地・中団	12- 18- 17-221/268	4.5%	11.2%	17.5%	36	52
平地・後方	3- 0- 5-177/185	1.6%	1.6%	4.3%	32	14
平地・マクリ	0- 3- 4- 7/ 14	0.0%	21.4%	50.0%	0	198

※中山芝2200mの脚質別&上がり3ハロン別成績(2020年1月～)

向こう正面からずっと緩まないロングスパート勝負になりますし、後続からずっとプレッシャーを受け続けるので基本的に逃げ馬はそこまで有利ではない舞台。成績を見ている限り、そこまで極端な悪い結果ではないですが、個人的にはもっと逃げ馬はダメなイメージを持っています。

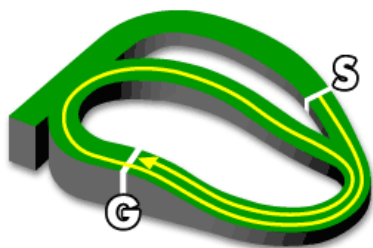
その逃げ馬を見る位置ぐらいから、キレル脚は必要ないのでとにかく長く脚を使えるスタミナタイプが有利な舞台。この舞台しか走らない非根幹距離巧者の活躍が目立つコースで、特殊な適性が問われるのでこの舞台に合いそうな馬は覚えておきたい。

<まとめ>

- 中山芝長距離戦で唯一外回りコースを使用、中盤からのロンスパスタミナ戦になる
- 逃げ馬は微妙、その直後から長く良い脚を使えるスタミナタイプが有利
- この舞台しか走らない非根幹距離巧者の活躍が目立つ

中山芝2500m

条件戦では前半スローからのロンスパ勝負、重賞では2パターンのレース質



ステイヤーズステークスだけが行われる中山芝2500mを除けば、中山競馬場の芝コースでは最長距離の舞台。どうしても有馬記念で内枠が有利で立ち回りセンスが問われるイメージがあるからか、同じようなイメージで中山芝2500mを考えてしまいがちだが、条件戦レベルでは立ち回り戦というよりは長距離らしいロンスパ勝負になる傾向。とにかくラスト1000mで速い上がりを出せる馬が強く、急坂を2回越えてもバテないスタミナとそれだけで速い上がりを出せる馬が向く舞台です。

枠番	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1枠	1- 2- 3-22/28	3.6%	10.7%	21.4%	10	38
2枠	1- 1- 3-26/31	3.2%	6.5%	16.1%	7	26
3枠	3- 1- 2-28/34	8.8%	11.8%	17.6%	107	38
4枠	1- 5- 4-28/38	2.6%	15.8%	26.3%	6	39
5枠	6- 5- 4-27/42	14.3%	26.2%	35.7%	36	69
6枠	4- 4- 3-33/44	9.1%	18.2%	25.0%	21	45
7枠	4- 3- 6-32/45	8.9%	15.6%	28.9%	18	82
8枠	6- 3- 0-37/46	13.0%	19.6%	19.6%	198	68

※中山芝2500mの枠順別成績(2020年1月~)

有馬記念のイメージから内枠が圧倒的に有利なイメージがあるが、枠順別の成績を見てみるとどれも大体互角。ただ、このコースは条件戦レベルでは少頭数になることが多く、そのために内枠と外枠の成績があんまり変わらない印象。コース形状的にはすぐにコーナーがあるので内枠有利だと思いますし、フルゲート戦に近くなればなるほど内枠が有利になるか。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	3- 2- 2- 22/ 29	10.3%	17.2%	24.1%	268	97
平地・先行	13- 9- 10- 49/ 81	16.0%	27.2%	39.5%	80	71
平地・中団	9- 11- 11- 85/116	7.8%	17.2%	26.7%	19	55
平地・後方	0- 2- 1- 75/ 78	0.0%	2.6%	3.8%	0	14
平地・マク	1- 0- 1- 2/ 4	25.0%	25.0%	50.0%	62	75

※中山芝2500mの脚質別&上がり3ハロン別成績(2020年1月~)

脚質的には先行脚質が最も優勢だが、逃げや中団あたりの馬も含めてほぼ互角。基本的にはある程度の位置からラスト1000mを速く走れる馬が良いレースでしょう。

騎手の腕が問われる芝の長距離戦だけに、この舞台はクリストフ・ルメール騎手が複勝率75%と圧倒的な成績を残している。条件戦で少頭数の中で能力上位のノーザンファーム産馬に乗っているというのがありますが、有馬記念で大穴クイーンズリングで穴を開けたりもしているので、単純にルメール騎手の腕が光る舞台という感じがします。

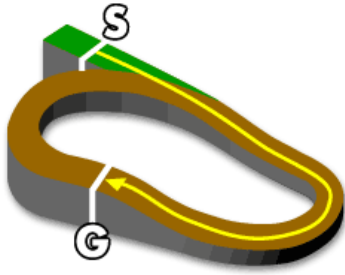
条件戦レベルでは立ち回り戦よりもロンスパ戦になることが多いですが、有馬記念や日経賞はハイレベルな馬が揃うのでまた違った感じのレース質に。どの馬もバテずに走り切れるスタミナを備えていることが多いので、軽い馬場やスローになれば完全な内枠有利の立ち回りレースになることもあるが、一方で重い馬場やハイペースになるとバテ比のポテンシャル勝負になることもある。上級戦ではどちらのレース質に振れるかをしっかり考えたい。

<まとめ>

- 条件戦レベルでは立ち回りよりロンスパ性能が重要になるコース
- クリストフ・ルメール騎手が複勝率75%と圧倒的な成績
- 有馬記念や日経賞のような上級戦では馬場、展開次第でレース質が変わる

中山ダート1200m

THE サウスヴィグラスな激流バテ比べコース



2コーナー地点の芝の引き込み線からスタート。スタート直後からずっと下り坂になるので、芝1200m同様に序盤からかなり早いペースになるのが特徴。それでいて直線には急坂があるために上がりがかかるのが特徴で、JRAの全てのコースの中でも最も極端な前傾ラップの消耗戦になりやすい。

芝部分を多く走れて、なおかつ揉まれずに競馬がしやすい外枠有利が定説な舞台。

枠番	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1枠	36- 34- 45-499/614	5.9%	11.4%	18.7%	55	70
2枠	34- 38- 33-535/640	5.3%	11.3%	16.4%	62	70
3枠	32- 47- 44-527/650	4.9%	12.2%	18.9%	106	76
4枠	34- 41- 37-542/654	5.2%	11.5%	17.1%	40	60
5枠	52- 37- 39-526/654	8.0%	13.6%	19.6%	116	81
6枠	46- 41- 53-520/660	7.0%	13.2%	21.2%	62	76
7枠	46- 51- 45-516/658	7.0%	14.7%	21.6%	56	69
8枠	51- 43- 35-531/660	7.7%	14.2%	19.5%	82	59

※中山ダート1200mの枠順別成績(2020年1月～)

実際に枠順別の成績を見ても外目の枠の方が優勢。外枠からテンスピードを活かして揉まれずに先行できる馬が有利な舞台といえます。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	72- 47- 35- 177/ 331	21.8%	36.0%	46.5%	246	151
平地・先行	176- 141- 123- 732/1172	15.0%	27.0%	37.5%	176	129
平地・中団	66- 115- 126-1646/1953	3.4%	9.3%	15.7%	36	62
平地・後方	17- 29- 47-1630/1723	1.0%	2.7%	5.4%	11	24
平地・マクリ	0- 0- 0- 1/ 1	0.0%	0.0%	0.0%	0	0

※中山ダート1200mの脚質別&上がり3ハロン別成績(2020年1月～)

典型的な前傾ラップの消耗戦になる舞台ですが、前がぶっ飛ばしても全馬が直線でバテてしまって前が止まらないレースがほとんど。全クラスの成績集計を見ても逃げ馬が複勝率5割近くですし、先行馬の成績も優秀。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	42- 30- 20- 73/ 165	25.5%	43.6%	55.8%	306	162
平地・先行	91- 66- 70- 350/ 577	15.8%	27.2%	39.3%	141	107
平地・中団	30- 62- 60- 820/ 972	3.1%	9.5%	15.6%	41	64
平地・後方	2- 8- 14- 858/ 882	0.2%	1.1%	2.7%	4	11
平地・マク	0- 0- 0- 1/ 1	0.0%	0.0%	0.0%	0	0

※中山ダート1200mの新馬、未勝利戦の脚質別&上がり3ハロン別成績(2020年1月~)

新馬戦や未勝利戦になると、絶対的なスピード差がはっきりしているのにより前有利のレース傾向に。逃げ馬の複勝率は55%まで上がりますし、よほど崩れになるような時でなければ前に行く馬を狙うのがセオリーです。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	18- 12- 10- 51/ 91	19.8%	39.0%	44.0%	236	139
平地・先行	48- 41- 31- 210/ 330	14.5%	27.0%	36.4%	248	159
平地・中団	17- 28- 34- 447/ 526	3.2%	8.6%	15.0%	27	62
平地・後方	8- 10- 16- 426/ 460	1.7%	3.9%	7.4%	9	28
平地・マク	0- 0- 0- 0/ 0					

※中山ダート1200mの1勝クラスの脚質別&上がり3ハロン別成績(2020年1月~)

ひとつクラスが上がって1勝クラスになると、スピードを活かして勝ってきた馬が多くなるので逃げ先行馬の成績も若干ダウン。と言っても非常に優秀な成績なので、1勝クラスまでは前有利と考えるのが定石。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	6- 3- 3- 32/ 44	13.6%	20.5%	27.3%	127	152
平地・先行	25- 20- 13- 98/156	16.0%	28.8%	37.2%	113	129
平地・中団	8- 16- 18-226/268	3.0%	9.0%	15.7%	23	62
平地・後方	5- 5- 10-204/224	2.2%	4.5%	8.9%	31	56
平地・マク	0- 0- 0- 0/ 0					

※中山ダート1200mの2勝クラスの脚質別&上がり3ハロン別成績(2020年1月~)

それが2勝クラスになると逃げ馬の成績がガクンと落ちます。このクラスぐらいまで来ると、スピード自慢の馬がズラリと揃うので、ただ前に行けるだけの馬では厳しくなります。

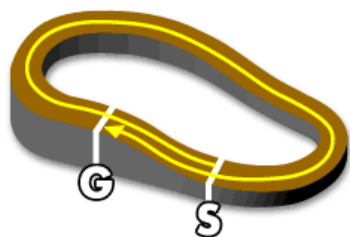
以前はサウスヴィグラス産駒の成績が優秀な舞台でしたが、最近ではヘニーヒューズやアジアエクスプレスの活躍が顕著。ヘニーヒューズ系の得意な舞台になっています。

<まとめ>

- 前傾ラップから上がりがかかる消耗戦になる舞台
- 外枠の馬の方がスムーズに競馬がしやすい
- 基本的には前有利な舞台だが、2勝クラスあたりから前に行けるだけではキツくなる
- ヘニーヒューズ産駒やアジアエクスプレス産駒の活躍が最近が目立っている

中山ダート1800m

バテない事、投げ出さない事が大事な超スタミナコース



スタート直後と最後の直線で2回急坂を登る上に全体の高低差も4.5m。数多くあるJRAのダート1800mの中でも最もタフでスタミナが問われるコースと見て間違いない。前半部分のペースは先行馬の数次第になるが、向こう正面から下り坂になるので大体はその地点からロンスパ勝負になることが多く、最後は急坂部分で全馬の脚が止まって消耗戦になる。そこでバテずに走り切れるスタミナがあるかが重要になるコースです。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	90- 59- 44- 233/ 426	21.1%	35.0%	45.3%	143	128
平地・先行	195- 198- 169- 649/1211	16.1%	32.5%	46.4%	148	152
平地・中団	64- 93- 117-1693/1967	3.3%	8.0%	13.9%	43	53
平地・後方	6- 12- 31-1648/1697	0.4%	1.1%	2.9%	13	17
平地・マク	15- 9- 9- 27/ 60	25.0%	40.0%	55.0%	275	174

※中山ダート1800mの脚質別&上がり3ハロン別成績(2020年1月~)

非常に上がり掛かる舞台ですが、後方で追走している馬も同じくバテてしまうので結果的に前が残ることが多いコース。他のダート1800mと同様に前有利の成績が出ています。タフでスタミナが問われて差が決まりやすい、というのはちょっと違うかも。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	50- 36- 22- 128/ 236	21.2%	36.4%	45.8%	81	104
平地・先行	106- 116- 99- 302/ 623	17.0%	35.6%	51.5%	179	174
平地・中団	26- 40- 65- 941/1072	2.4%	6.2%	12.2%	32	50
平地・後方	2- 2- 5- 918/ 927	0.2%	0.4%	1.0%	17	11
平地・マク	12- 3- 4- 12/ 31	38.7%	48.4%	61.3%	351	164

※中山ダート1800mの新馬、未勝利戦の脚質別&上がり3ハロン別成績(2020年1月~)

だいたいこういう成績は新馬、未勝利の方が前有利に出やすいのですがこの舞台では変わらず。捲りの成績が非常に良いのを見ても、全馬がスタミナを問われて地力がはっきり出やすいので、本当に強い馬が途中で動いてあっさり勝つシーンが下級条件では多いということでしょう。

非常にタフでスタミナが問われる舞台ということで、中山ダート1800m ほとにかく馬格が大きい馬が有利。基本的にダート戦は馬体重が大きい馬が走りやすくはあるが、その中でもこの舞台は大型馬に好走が偏っています。

馬体重	着別度数				勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
～399kg	0-	0-	0-	9/ 9	0.0%	0.0%	0.0%	0	0
400～419kg	0-	1-	2-	58/ 61	0.0%	1.6%	4.9%	0	262
420～439kg	4-	15-	9-	274/ 302	1.3%	6.3%	9.3%	29	35
440～459kg	47-	42-	57-	668/ 814	5.8%	10.9%	17.9%	59	73
460～479kg	96-	84-	81-	1071/1332	7.2%	13.5%	19.6%	86	67
480～499kg	99-	106-	100-	1031/1336	7.4%	15.3%	22.8%	71	71
500～519kg	65-	81-	75-	672/ 893	7.3%	16.3%	24.7%	60	68
520～539kg	42-	29-	33-	354/ 458	9.2%	15.5%	22.7%	69	79
540～	17-	13-	13-	120/ 163	10.4%	18.4%	26.4%	73	81

※中山ダート1800mの馬体重別成績(2020年1月～)

420kg以下の馬の成績はほぼ絶望的で、440kg以下の複勝率も最悪。一方で馬体重が増えれば増えるほど複勝率は上がっていきますし、他のダートコースでここまで顕著な結果は出ていません。もうこのデータを見ても大型馬を狙った方がいいコースでしょう。

普段でさえスタミナがはっきり問われる舞台だが、冬時期のパサパサのダートになるとさらにスタミナが問われる舞台に。12～2月頃は恐ろしく上がりが掛かって時計が遅くなることが多く、鈍足スタミナタイプがいきなり激走して大穴を開けるケースが目立ちます。

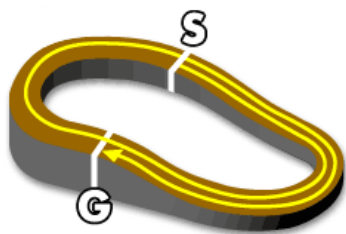
新進気鋭の田中博康厩舎はこの条件が大得意。直近1年で複勝率6割近い成績になっていますし、この条件は得意と見ていいか。

<まとめ>

- JRAのダート1800mの中でも最もタフで上がりが掛かる消耗戦になる
- スタミナは問われるが結局は先行有利な傾向が出ている舞台
- 440kg以下の馬の成績は微妙で、馬体重は大きければ大きいほどいい
- 12～2月頃はさらにタフな馬場になって鈍足スタミナタイプが穴を開ける
- 田中博康厩舎は複勝率6割で得意としている条件

中山ダート2400m

最もスタミナが問われる舞台だけに勝負所までロスなく運びたい



高低差の大きい中山コースで距離も2400m ということで、ほとんど実施されない中山ダート2500mを除けばJRAで最もタフでスタミナが問われるコース。

日付	クラス	馬場	タイム	勝ち馬	1F	2F	3F	4F	5F	6F	7F	8F	9F	10F	11F	12F	上3F	中6F	下3F	上5F	ペース	レース
1月9日	1勝	良	2:36.0	メラーキ	13.1	12.1	13	14.1	13.5	13.8	14.1	12.7	11.6	12.4	12.6	13	38.2	79.8	38	65.8	SS	平坦
1月10日	2勝	良	2:36.5	レッドソルダード	12.8	12	11.9	13.2	14.7	14.5	13.6	12.4	12.5	12.8	12.7	13.4	36.7	80.9	38.9	64.6	S	平坦
3月13日	1勝	良	2:37.6	ジジ	13.3	12.5	13	13.1	14	13.8	13.7	12.8	12.3	12.7	12.9	13.5	38.8	79.7	39.1	65.9	SS	平坦
3月21日	2勝	稍重	2:36.3	オンザフェーヴル	13.2	12.4	12.1	12.1	13.2	14.4	15.3	14	12.2	12.4	12.3	12.7	37.7	81.2	37.4	63	S	平坦
4月2日	1勝	稍重	2:35.1	エクセレントラン	12.7	12.3	12.7	12.8	13.4	13.5	13.2	12.6	12.5	12.9	12.9	13.6	37.7	78	39.4	63.9	M	消耗
4月9日	2勝	良	2:34.8	フィストノブ	13.3	12.1	13.3	12.6	12.5	13.1	13.5	12.8	12.7	12.9	12.8	13.2	38.7	77.2	38.9	63.8	M	平坦

2022年のこれまでの中山ダート2400mのレースラップ推移を見ても、長距離戦ということで前半から中盤はゆったりと流れることが多く、2周目の向こう正面の下り坂から一気にペースが上がってロングスパート勝負になることが多い。そのペースアップ区間まではゆったりとキャンターのように流れるが、それでもペースがタフな舞台なのでスタミナがない馬ではペースアップ区間でついていけずにあっさりと脱落していく。

いかに勝負所のペースアップ区間までに体力を温存できるかが重要なコースで、その意味でこのコースは前付けした馬が有利。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	90- 59- 44- 233/ 426	21.1%	35.0%	45.3%	143	128
平地・先行	195- 198- 169- 649/1211	16.1%	32.5%	46.4%	148	152
平地・中団	64- 93- 117-1693/1967	3.3%	8.0%	13.9%	43	53
平地・後方	6- 12- 31-1648/1697	0.4%	1.1%	2.9%	13	17
平地・マクリ	15- 9- 9- 27/ 60	25.0%	40.0%	55.0%	275	174

※中山ダート2400mの脚質別&上がり3ハロン別成績(2020年1月~)

逃げ馬も先行馬も複勝率は50%近くになりますし、なかなか勝負所で一気にペースアップする時までに位置を押し上げるためにエネルギーを使ってしまうような馬では無理なんでしょう。勝負所まで前目でエネルギーを温存できそうな馬を狙いたい。

<まとめ>

- 前半から中盤はゆっくり流れて、2周目の向こう正面からロングスパ勝負になる
- 前目につけて勝負所までにエネルギーを温存できる馬